

海とアートの  
学校まると  
美術館



めら  
布良の海を愛した画家たち展

～青木繁・寺崎武男・倉田白羊～



2019.4.27～5.6 ＊ゴールデンウィークに、旧富崎小学校に名画が勢ぞろい。

青木繁「海の幸」記念館とあわせて、期間中1,700人が来場されました。

**青木繁** 東京美術学校を卒業した明治37(1904)年夏、友人と恋人と4人で布良(館山市)の小谷家に滞在し、『海の幸』をはじめ多くの作品を情熱的に描きました。翌年の再来房時、伊戸(館山市)の円光寺で板戸4枚に焼き釘で描いた太平洋の大波画は、波の伊ハが制作した欄間彫刻『龍と波』がイメージソースになったかもしれません。青木は神話にも造詣が深く、後に描いた『わだつみのいろこの宮』は布良の潜水体験から構想したといえます。玄界灘の波を描いた遺作『朝日』は今春、佐賀県重要文化財に指定されました。

**寺崎武男** 青木より3年後に東京美術学校を卒業し、農商務省実業講習生としてイタリア留学。フレスコ壁画やテンペラ画、エッチングなど様々な技法を学び、日本美術史に影響を与えました。法隆寺輪堂や東京大学病院などに壁画を残しています。館山に住んでいた現代彫刻の祖・長沼守敬を慕って、大正期より西ノ浜(館山市)に別荘を持ち、震災後に定住しました。安房高校で美術指導をしながら、多くの房総神話を描き、安房神社や布良崎神社、下立松原神社などに多くの神話作品が奉納されています。

**倉田白羊** 青木の3年先輩で東京美術学校を卒業し、写生旅行で来房中に出会った根本(南房総市)の小谷英子と結婚しました。八幡(館山市)に住み、大正期に富崎小学校をはじめ安房各地で児童自由画教育に尽力しました。美術誌『方寸』最終号は青木繁追悼特集とし、夫婦で編集にあたりました。妻の英子は、布良の隣村・根本の生まれで、米国モンレーに渡ったアビ漁師(小谷源之助・仲治郎)の妹です。七浦(南房総市)の兄・仲治郎の家には、白羊が描いた襖絵もありました。



寺崎武男の作品を広げるメンバー＝旧富崎小学校で

安房ゆかりの画家たちの名画を集めた「海とアートの学校まると美術館」

27日から「安房ゆかりの名画展」で公開へ

寺崎武男の遺族200点寄贈

房日新聞 2019.4.14 付



「海とアートの学校まると美術館」(青木繁『海の幸』誕生の家と記念碑を保存する会主催、房日新聞社(以下後援)が27日から5月6日まで、館山市の旧富崎小学校で催される。展示を前にこのほど、館山に定住した洋画家・寺崎武男の遺族から、寺崎の絵画など200点以上が同会に寄贈され、関係者は展示に向けた準備を進めている。

寄贈されたのは、洋画や手帳、手紙など200点以上。洋画は、安房開拓神話や、戦争と平和を題材にしたものが多く、西洋古典画法のテンペラや油絵、銅版画など、多彩な技法で描かれている。11日は、会のメンバーらが寄贈された作品を広げ、どれを展示するか選ぶなどの準備にいそいそしていた。

日本創作版画協会を設立するなど日本美術史に影響を与えた寺崎は、別荘のあった西の浜(同市)に拠点を移し、昭和24年から4年間、現在の安房高校で美術講師を務めたという。美術部で指導を受けた同会の嶋田博信会長(85)は、「子どもの時には分からなかったが、今になって先生の偉大さを感じている」と感慨深げ。「地域のことを描いたたくさんさんの素晴らしい作品がよく残っていた。ぜひ大勢の人に見てもらいたい」と話している。

会場は、平成29年に閉校した富崎小学校。校舎の利活用を目的に企画され、3月には地区住民ら延べ100人が、3回にわたり校舎内を清掃した。

寺崎の他に、洋画家の青木繁や倉田白羊の作品も並べ予定で、学校周辺でのウォーキングなどイベントも企画している。入場無料。

問い合わせは、事務局のNPO法人安房文化遺産フォーラムの池田さん(090-6479-13498)へ。



⇒ 夏休みには「館山の海を愛した画家たち展」を渚の駅ギャラリーで開催予定！ 乞うご期待。

NHK ニュース 2019.4.30

千葉県館山市で、閉校になった小学校の校舎を会場に、地域ゆかりの画家たちの作品を集めた美術展が開かれています。

「布良の海を愛した画家たち展」と題したこの美術展は、おとし閉校になった小学校の校舎を活用して初めて開かれました。

明治から昭和にかけて活躍した、地域ゆかりの3人の画家、青木繁と寺崎武男、それに倉田白羊の作品に加え、地元の子どもたちが描いた模写絵など合わせて 100 点余りが展示されています。

主催した青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会の会長を務める嶋田博信さんは、「小学校が廃校になりまして、利活用を大いにしたい。多くの人に鑑賞してもらえればと思っています」と話していました。



安房ゆかりの画家たちアートの学校まるごと美術展の名画を集めた「海と術館」(青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会主催、房日新聞社など後援)が、館山市の旧富崎小学校で開かれています。日本美術史に影響を与えた洋画家の青木繁や寺崎武男、倉田白羊の絵画など100点以上が展示され、閉校となった校舎が「美術館」として生まれ変わっている。6日まで。展示されているのは、明治37年に友人らと布良を訪れた青木繁の代表作

房日新聞 2019.5.1

# 絵画100点が来場者魅了

旧富崎小 6日まで「学校まるごと美術館」

館山

安房ゆかりの画家たちアートの学校まるごと美術展の名画を集めた「海と術館」(青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会主催、房日新聞社など後援)が、館山市の旧富崎小学校で開かれています。日本美術史に影響を与えた洋画家の青木繁や寺崎武男、倉田白羊の絵画など100点以上が展示され、閉校となった校舎が「美術館」として生まれ変わっている。6日まで。展示されているのは、明治37年に友人らと布良を訪れた青木繁の代表作



寺崎武男の舞台幕の前で開かれたコンサート＝旧富崎小学校で

「海の幸」の複製画や、昭和の安房高校で美術講師を務めた寺崎武男のびょう

ぶ絵など。体育館には大型作品、教室には漁具や富崎地区の歴史を紹介するパネルなどが並んでいる。期間中は毎日午後1時半から、学校周辺でのウォーキングなどイベントを企画。体育館では、寺崎のエッチング画を拡大した舞台幕の前でコンサートもあり、観客を魅了していた。訪れた買方堯年さん(72)＝南房総市岩糸＝は「画家と地域とのつながりが分かり、歴史を感じることができた」と感慨深かった。



(写真)

- 左上: 青木繁「朝日」の複製画制作者・島田吉廣氏
- 左中: 父・寺崎武男を語る寺崎裕則氏(日本オペレッタ協会名誉会長)
- 左下: 富崎小学校体育館の展示会場
- 右下: 青木繁「海の幸」記念館(小谷家住宅)

